

卒業の日に

今日学窓を巣立たれる卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。今日の卒業生の多くは二〇〇一年度の入学であり、みなさんは二一世紀で最初の大学新入生になった人たちです。二度の大戦を経験した二〇世紀を経て、人類の平和と繁栄を期待されながら出発した新世紀でしたが、最初の数年間をみるかぎり、どちらかといえばその出足はあまり芳しいものではありませんでした。

「九・一一同時多発テロ」という前代未聞の事件が起こり、これをきっかけにアフガンやイラクで戦争が始まりました。世界の各地で頻発した爆弾テロや人質事件に追いつちをかけるがごとく、地震や津波といった大きな天災もありました。国内では、「失われた十年」から久しくなおバブルの後遺症は癒えず、リストラやフリーター、ニートといったカタカナ言葉も世相の中にすっ



目標を持ち、学びつづける努力を

商学部長

さかいしょうさぶろう
酒井正三郎

かり定着しました。中国をはじめとする東アジア経済の台頭のなかで、「ジャパン・アズ・ナンバーワン」は、今や「神話」の域に入りつつあります。みなさんが巣立っていくのは、こうした一見したところ先行きの不透明な、不確実性の社会であるようにも見えます。しかしよく言われるように困難な時こそチャンスの時です。変化の激しい時代を生きていく上で大切なこと、それは、つねに自信を見失うことなく自分の目標に向って学びつづける意志をもつということ、一人ひとりが持っている自分の夢や希望を大切に、これを育むための持続的な努力を怠らない、ということです。大学で得た教養、知識を生かし、その上に生涯剥落することのない、人生の豊かな知恵を開花させるべく頑張ってほしい。

二一世紀の社会に相応しい、新しい価値観の形成はみなさんの双肩にかかっています。みなさんの前途の明るく洋々たることを心より祈念し、卒業のお祝の言葉といたします。